

	項目名	内 容	地区・場所	備 考	担 当	回 答
1	市街化調整区域について	<ul style="list-style-type: none"> 市街化調整区域が地域の発展・活性化を阻害しているとの意見があります。この件については、特別指定区域全面見直しを要請していただいております。一方、兵庫県都市計画審議会の中で議論され2023年度末に見直しの素案がまとめられるとのことですが、当地区内市街化調整区域の廃止も含め兵庫県の素案に反映していただきますよう要望致します。 特別指定区域と線引き廃止の関連性について教えてほしい。 	上野町他地区 内市街化調整 区域対象町		都市整備部	<p>市街化調整区域の土地利用規制緩和については、加西市の都市計画の最重要課題であり、昨年から107地区の「特別指定区域の全面見直し」にR5完了を目指して取り組んでいるところです。</p> <p>市街化区域と市街化調整区域との区域区分（いわゆる「線引き」）ですが、導入された昭和46年当時は、高度成長期の真っ只中で「無秩序な乱開発」への懸念から、必然の政策であったと考えています。しかし、人口減少社会に入り10年以上経過した現在では、空き家活用すら困難である市街化調整区域の存在が「まちづくりの足枷」になっています。</p> <p>「線引き」を決定する権限を持っている兵庫県において、昨年の秋より土地利用規制緩和について踏み込んだ検討を開始し、今年度より「線引きの要否についても検討する」と発信があったことから、加西市は市内全域における「線引き」の廃止を強く要望しています。（市長会や副市長会でも要望をしております。）</p> <p>兵庫県は、有識者による専門委員会を立ち上げ、「線引き」の要否を議論すると公表しています。その議論のなかで加西市は線引き廃止を強く訴えていき、来年のタウンミーティングで進捗報告ができるように努めてまいります。</p> <p>・線引きを廃止すれば家を建てやすくなるが、特定用途制限地域を定めるため何でも建てられるわけではない。線引き廃止を要望していくが、廃止の議論はまだ不透明であるため、まずは特別指定区域で検討していきたい。</p>

2	産業団地について	<p>・1-1及び1-2工区については進出企業の工場建設中、また4工区に4社の進出が決まり、110人雇用と聞いております。</p> <p>一方、インター南側2期工事の3工区及び5工区については進出意向調査が終了と伺っておりますが、結果についてご教示ください。</p>	在田地区インター周辺		都市整備部	<p>○第1期事業の雇用規模 現時点で進出企業様が公表している内容をまとめると次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-2工区 リスパック様様が令和3年7月28日に発表された内容では、従業員数144名のうち、地元採用として115名を計画されています。 ・1-1工区 令和3年5月25日に発表された内容では、(株)千石様が65名、(株)大窪鐵工所様が60名の雇用を計画されております。 ・4工区 令和4年8月26日に公表された内容では、4社合計で110名の雇用が計画されております。 <p>以上を合計すると計画ベースではありますが350名の雇用規模となっております。</p> <p>今後も各工区での企業進出の決定・公表が続きますので、雇地規模はさらに増えることが見込まれます。</p> <p>昨年度もお願いさせていただきましたが、地元の皆様におかれましては、新たに就職を希望されている方々やUターン等を希望されている方々へ情報提供して頂きますようお願い致します。</p> <p>○第2期事業(3・5工区)の進捗状況 3・5工区は、令和5年度中には土地利用規制を緩和できるよう県関係機関との協議を重ねているところです。</p> <p>これと並行して、3・5工区について進出意向の調査を令和4年6月末から8月末までの2か月間で実施しました。1期事業の段階で約40社から関心を示して頂いておりましたが、新たに8社から具体的な進出意向を頂きました。</p> <p>企業誘致に当たって情報交換しているひょうご・神戸投資サポートセンター、金融機関、不動産事業者や、問合せを頂いた企業様によると、近年の水害リスク回避、都市部では事業用地価格の高止まり、まとまった面積の確保が困難なことから、事業用地ニーズは内陸化が進んでおり、今後もこの傾向は続くのではないかとのことです。</p> <p>近年は社会情勢の変動が大きいです。3・5工区につきましても第1期事業と同様、早期に進出企業を決定できるよう、機を逃すことのないよう進めて参りたいと考えておりますので、ご協力をお願い致します。</p>
		<p>・産業団地の件で要望ですが、3, 5工区には圃場整備で生産した農作物を活用してくれる企業を誘致してほしい。</p>				<p>・誘致の際は、考慮します。</p>

3	市道の整備について	<ul style="list-style-type: none"> ・市道96号（殿原－佐谷線）JA在田支店～泉小学校間（約100m）の拡幅工事については、昨年地区優先順位1位で申し入れておりますが、現在未着工であり具体的な工事スケジュールについてご教示ください。 ・市道744号（鴨谷一別所線）のうち万願寺川から殿原交差点間約500mは在田地区内市道で最も交通量が多い区間ですが、路側帯が狭く自転車、歩行者が大変危険な状況です。また、BX新生精機様と中国自動車道間に物流センターの進出が決まり、操業開始後は更に交通量の増加が見込まれます。産業団地との関連事業にて当該区間の交通安全対策を要望致します。 ・JA在田支店～小学校間でどの程度道路が広がるのですか。 ・市道744号のことですが、本来は通学路となる場所ですが、（歩道がなく通行量が多いため）別の道を通学路としているので要望として挙げています。 また、小学校の中心地で歩道がないところは少ないので、要望として挙げさせていただいた。 	殿原町		都市整備部	<p>市道96号線（殿原佐谷線）の拡幅工事について、現在、中規模修繕工事として要望を頂いています。</p> <p>現地確認を行った結果、用地買収が必要であるため、順番待ちとなりますが、幹線改良工事として整備することを検討しています。（本年度は、地区優先順位の2番の芥田1号線整備を行いたいと考えています。）</p> <p>市道744号線（鴨谷別所線）については、延長が長く用地買収を伴うことから、国庫補助事業の活用を検討致しますが、歩道等の拡幅工事は通学路に重点をおいて整備する方針ですので、当該区間の事業化には相応の期間が必要と考えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今から詳細設計を始めるのでまだ確定ではありませんが、歩道なし、センターラインありで考えています。 ・物件が多く困難な場所である。狭いことは理解しているので考えていきたい。
4	農道改修について	<ul style="list-style-type: none"> ・農道の改修については、「多面的機能支払交付金」を活用すべきと理解しておりますが、生活道路にて活用区間も多々あります。圃場整備後30年～40年以上経過しており構造物の老朽更新もあり予算的に農道改修に廻せない状況です。何らかの補助制度で補完出来ないでしょうか。 ・農道のアスファルト舗装の改修に3年分のお金をかけたため、他の事業ができなかったということがあったが何とかならないか。平成30年のタウンミーティングでは、中山間交付金の活用を回答していただいた。検討いただきたい。 	鴨谷町		地域振興部	<p>圃場整備後30年～40年以上経過している農業用施設は、加西市内のどの地区も老朽化が進んでおり、現在は、多面的機能支払い交付金の範囲で維持管理をお願いして頂いている現状であります。</p> <p>この問題は各地区の大きな課題でもありますので、現在はほ場の再整備に向けた抜本的な改修を検討されている地区も多数御座います。</p> <p>再整備事業のメニューには、ほ場の大区画化(1町区画)、幅員の農道(W=5.0m)、用水のパイプライン化等御座いますので、地域で合意形成に向けて話し合っ頂き、意欲ある担い手による生産性、収益性の高い農業経営を目指す再整備事業も御座いますので、ご検討の際には、農林整備課の方にご相談にさせて頂きますようお願いいたします。（一方、受益者負担金も発生する）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多面的支払交付金については15年経過しており、加西市で2億7千万円の補助金が下りてきているが、各町の事業の密度が違う中で、各地区で(補助金の)融通が利かないかという意見も出ている。多面的支払交付金の融通利用には、広域化が条件である。こういったことを含めて、今後広域化を考えていきたい。 また、中山間交付金には地域要件があり、この地域は対象外であった。中山間についてもできるだけ有効な補助金を検討したい。

5	泉学童保育について	<ul style="list-style-type: none"> ・泉学童保育は旧泉幼稚園舎を利用しておりましたが、老朽化のため解体建替えとお聞きしており、完成時には定員が増えると同様です。高学年児童で希望があれば利用できるようになるのでしょうか。 	学童保育舎		教育委員会	<p>現在の定員は30人ですが建て替えにより60人定員を予定しています。今年度の申し込み状況であれば高学年児童は受入可能です。</p> <p>子どもの数が減少傾向にあることと、入園希望者が増加傾向にあることの双方の変化がありますので、将来までの担保は難しいのですが、現状では対応可能規模と考えています。</p> <p>工事を今年度発注しておりますが、概ね令和5年度6月までかかると考えています。</p> <p>また、工事中に通行止めがあるかもしれませんが、ご理解をお願いします。</p>
6	(追加質問) 地域支援型交通について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援交通のアンケートを取って在田でどうしようか検討しているが、校区単位で独立して地域交通をされていることについて、縦割りの校区単ではなく、旧泉地区全体の広い範囲でやれば、もっと効率的な運用が可能ではないか。また、企業とコラボした運営もできないか。 ・現在検討している地域交通の車両は、市で購入していただけるのか。 	在田地区全域		ふるさと創造部	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の市の交通計画では、神姫バス・北条鉄道といった既存交通路線に対して、各地域がどう接続するかを前提としている。 ただ、兼ねてから地域交通の北条地区への乗り入れについては一定の議論がされており、いくつかの地域交通が立ち上がった時点では、広域的で効率的な運営形態も検討する必要があるように感じている。 現在、地域交通を九会や下里でも考えられており、しっかり検証して今後の計画に生かし議論したい。 ・市で予算化します。
7	(追加質問) 農道から市道への格上げについて	<ul style="list-style-type: none"> ・農道が生活道となっていく場合、市道への格上げはあるのですか。 	在田地区全域		都市整備部	<ul style="list-style-type: none"> ・市道認定は、4m幅員等いくつか条件があり、今は新しく造っている道路だけを市道認定している。現状、市道への格上げは困難である。市道認定するにも条件があるので、要望がある場合は相談に来てください。
8	(追加質問) 川の樹木管理について	<ul style="list-style-type: none"> ・芥田川に木が覆い茂っているのですが、木が倒れたりすると川を塞いで問題になるが、高齢化が進んで対応できない。市で何とかならないでしょうか。 ・市に行ってもいつも答えは同じで、地権者がするべきということと言われる。 	芥田町		都市整備部	<ul style="list-style-type: none"> ・県の管理となるが、土木課へ相談に来ていただければ。 ・民地の木を市で切ることはできない。一度現場を見させていただきます。